

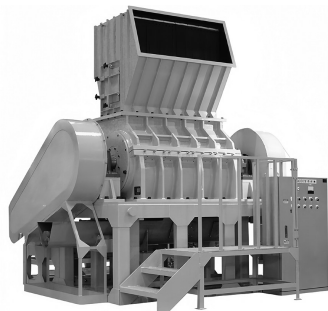


押します!!



中尾 淳人さん
(株) New Innovations
代表取締役 CEO 兼
CTO Founder

日本シームさんは「廃プラスチックの再生力を高める」という言葉の通り、まさにこの分野の第一線を走るプレイヤーだと思います。洗浄、粉碎、脱水といった中間工程の技術開発を突き詰めながら、単なる装置メーカーにとどまらず、環境問題に対してたんに「技術で解決する」のではなく、「社会と一緒に変えていく」というスタンスが次世代により良い環境を残していくと確信します。これからも応援しています!



廃プラの粉碎と洗浄を同時にこなす機器



「廃プラ再生の未来を変えたい」と語る木口CEO



再生されたペットボトル



環境に対する意識の高まりが追い風に

廃プラの粉碎・洗浄を1台で同時進行 リサイクルの革新的技術の開発を目指す



「親子で楽しむアップサイクル体験会」も開催している

20世紀最大の発明といわれるプラスチック。軽くて丈夫で加工しやすいという特性からアツという間に世界中に広がったが、その一方で自然環境で分解されるまでに長い年月を要することから環境に負荷がかかることされている。こうしたプラスチック問題の解決に取り組んでいるのが日本シーム(株)だ。

同社の主力製品は廃プラスチックの粉碎・洗浄機。従来、廃プラの粉碎と洗浄は別々の工程でそれぞれの工程に専用機を必要とするが、同社の機器は1台で粉碎と洗浄を同時にすすめることができ、時間と

コストを大幅に削減できるという。その仕組みは処理機に廃プラと水を投入すると、大型ローターが高速回転して廃プラを粉碎。それと並行してローターのなかで細かく砕かれた廃プラの破片がモミ洗いのように洗浄され、2工程が同時にすすむというもの。木口達也CEOによると、その構造はドラム式洗濯機に似ているようで「脱水機能も搭載されており、粉碎、洗浄とあわせて1度に3工程を進行することができる」と胸を張る。

粉碎・洗浄された廃プラはその後リサイクルの過程に移行するが、同社はこの過程でも技術の向上を目指している。木口CEOの話では、現状の廃プラのリサイクル技術には限界があり、たとえばペットボトルをリサイクルしても再生後はプラスチックの品質が下がり、用途が大幅に縮小してしまうという。そこで、たとえば同社では、自動車のバンパーをリサイクルし、ふたたび車の内装品として活用できるくらいの水準にまで再生品の質を上げられるよう技術を高めている。

そうだ。そのために同社は国内にふたつの研究施設を構え、新技術の開発を推進している。結果、研究開発にこれまで以上に注力できるようになり、印字の入った廃プラの印刷の色を脱色する技術などを生み出すことにも成功したそう。

そんな同社にとって、このころの世間の環境に対する意識の高まりが追い風になっているという。同社の洗浄・粉碎機の納入先はかつては廃棄物処理業者など一部にかぎられていたが、2015年のパリ協定によって気候変動を防ぐ国際的な気運が盛り上がり、ペットボトルを容器に用いる飲料メーカーやプラスチック容器を使う日用品メーカーなどを中心に自社でリサイクルに取り組む企業が増え、機器の納入先が飛躍的に広がっているという。こうした勢いに乗り、同社は26年度に廃プラの大規模な総合テストセンターを埼玉県に建設する予定で、木口CEOは「廃プラリサイクルの革新的な新技術を開発し、埼玉から世界に発信したい」と目を輝かせている。

自社採点

企画開発	=☆☆☆☆☆
営業力	=☆☆☆☆
成長力	=☆☆☆☆☆
収益力	=☆☆☆☆☆
地域貢献力	=☆☆☆☆☆
人材力	=☆☆☆☆
専門性	=☆☆☆☆☆
リサーチ力	=☆☆☆☆
計画性	=☆☆☆☆☆
リスクマネジメント	=☆☆☆☆☆